

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-----------------|-------------|---|----------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 会話・発音(中上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 40 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 501教室 |
| 担 当 教 員 | 中村 絵 | 実務経験とその関連資格 | 2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 日本語の間違えやすい発音の区別、会話におけるなめらかな流れ、場面に応じた慣用表現を身につける。様々な場面での会話の表現を勉強する。相手に応じて話し方が変わるので、その違いと使い分けについて勉強する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点(グループワークや発表態度) :10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 『Shadowing 日本語を話そう! 初～中級編』(くろしお出版)、『リズムで身につく日本語の発音』(スリーエーネットワーク)、『ブラッシュアップ日本語会話』(スリーエーネットワーク)、『なめらか日本語会話』(アルク)から抜粋、オリジナルハンドアウト使用 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 場面や相手によってふさわしい表現が使えるように、練習してみましょう。文化面を知った上で会話を深めていってください。普段から日本語で考え、話すことは会話を高めるために大切なことです。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業では会話の場面と機能を確認し、ペアでまたはグループで何度も練習してください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 拍がとれるようになる。様々な相手に許可を求める、与える表現が使えるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(拍)許可(1) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 縮約された言葉を正しく発音できるようになる。様々な許可を求められたとき、受けない、制限を述べることができる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(縮約形)許可(2) | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | アクセントを理解し、正しいアクセントで発音できるようになる。伝言を頼む、申し出ることができる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(アクセント)伝言(1) | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | イントネーションを理解し、使えるようになる。電話をかけることを申し出る、後で電話をしてほしいとお願いする。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(イントネーション)伝言(2) | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 文で区切りやポーズの場所を見つけ、区切りやポーズを置きながら文を読むことができる。依頼をする、受けることができる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(区切り・ポーズ)依頼(1) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|----------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語のプロミネンスを理解できるようになる。 依頼を断る、諦めたことを伝えることができる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 発音(プロミネンス) 依頼(2) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や場面に応じて、適切に謝ることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(1) 謝る(1) | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や場面に応じて、謝られた時に答える表現を学んで、答えることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(2) 謝る(2) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や場面に応じて、適切に謝ったり、それに対してこたえられるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(3) 謝る(3)ロールプレイを中心に | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や状況に応じて、表現を使い分けて、誘うことができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(4) 誘う(1) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や状況に応じて、誘われた時に、適切に受け入れたり断ったりすることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(5) 誘う(2) | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や状況に応じて、表現を使い分けて、誘って、答えることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(6) 誘う(3)ロールプレイを中心に | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | アドバイスをする時の表現を学んで、相手や状況に応じて、アドバイスをすることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(7) アドバイス(1) | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | アドバイスをされた時の答え方を学んで、相手や状況に応じて、アドバイスに対して答えることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(8) アドバイス(2) | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や状況に応じて、アドバイスをしたり、アドバイスに答えることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(9) アドバイス(3)ロールプレイを中心に | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-----------------|-------------|---|----------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 会話・発音(中上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 40 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 501教室 |
| 担 当 教 員 | 中村 絵 | 実務経験とその関連資格 | 2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。 | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>日本語の間違えやすい発音の区別、会話におけるなめらかな流れ、場面に応じた慣用表現を身につける。様々な場面での会話の表現を勉強する。相手に応じて話し方が変わるので、その違いと使い分けについて勉強する。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点(グループワークや発表態度) :10%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>『Shadowing 日本語を話そう! 初～中級編』(くろしお出版)、『リズムで身につく日本語の発音』(スリーエーネットワーク) 『ブラッシュアップ日本語会話』(スリーエーネットワーク)、『なめらか日本語会話』(アルク)から抜粋、オリジナルハンドアウト</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>場面や相手によってふさわしい表現が使えるように、練習してみましょう。文化面を知った上で会話を深めていってください。普段から日本語で考え、話すことは会話を高めるために大切なことです。</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業では会話の場面と機能を確認し、ペアでまたはグループで何度も練習してください。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手をほめる時の表現を学んで、相手や状況に応じて、ほめることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(10) ほめる(1) | | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 褒められた時の答え方を学んで、相手や状況に応じて、答えることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(11) ほめる(2) | | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 相手や状況に応じて、ほめたり答えたりすることができるようになる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(12) ほめる(3)ロールプレイを中心に。 | | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 文句を言う、謝る、言い訳をすることができる。 | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(13) 速回しに不満を伝える、謝る。 | | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | まとめ | 使用教材から抜粋 | 課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | シャドーイング(14) 総まとめ | | | |